

特集 すいよう

平和の願い一歩から

67回国民平和大行進 米国でも連帯

1958年に始まった原水爆禁止国民平和大行進は、今年67回目を迎えました。核兵器も戦争もない世界を求めて、5月6日に出発した国民平和大行進は、広島、長崎を目指して約3カ月間、核兵器廃絶・平和をアピールしながら歩きます。米国で連帯が広がると月かけてピースウォークが行われます。(加来恵子)

「私たちは核兵器のない平和で公正な世界をめざして行動する国民平和大行進です。一歩でも二歩でも参加できます。一緒に歩きましょう」

7日、午前9時30分に川崎市川崎区の川崎大師公園に集合し、川崎市役所の近くにある公園まで行進しました。時折激しい雨が降る中、「ロシアはいますぐ撤退を」「イスラエルは攻撃をやめよ」などのコールを響かせました。

川崎建設労連の櫻井統己さん(41)は「4歳と8歳の子どもがいます。上の子が頻りに病院に行く必要があります。病気を治さなくてはならない。ロシアはウクライナの病院を攻撃し、殺されているのを見て、上の子と重なり自分も何か行動をしたい」と語りつづけます。

▼アメリカの「平和のための退役軍人」が連帯してピースウォークを開始しました(原水爆禁止日本協議会提供)



▲核兵器のない世界をアピールする国民平和大行進の人たち＝7日、川崎市川崎区



川崎医療生活協同組合の名倉三也子理事(79)は知り合いの胎内被爆者が43歳で亡くなったと語り、「胎内被爆者は直接原爆の影響によるやけどなどがなくても、放射線の影響はある。胎内被爆の人たちを含め、被爆者は差別を受けることがあり、声をあげてほしいので、私たちがそういう人たちに寄り添い、声をあげていかなければ」と話します。

長崎で被爆した神奈川県原爆被災者の会川崎支部の陣川幸子さん(88)は、爆心地から約8・5キロの磯道町の自宅の陰にいて、閃光は浴びませんでした。

ちを含め、被爆者は差別を受けることがあり、声をあげてほしいので、私たちがそういう人たちに寄り添い、声をあげていかなければ」と話します。

長崎で被爆した神奈川県原爆被災者の会川崎支部の陣川幸子さん(88)は、爆心地から約8・5キロの磯道町の自宅の陰にいて、閃光は浴びませんでした。

爆した人たちの姿は「地獄のようなだった」といいます。「母は70歳すぎに突発性骨髄腫を発症して亡くなりました。原爆被害はその日です。平和の願いや名前が書かれたペンタは被爆地に届けられたいです。」

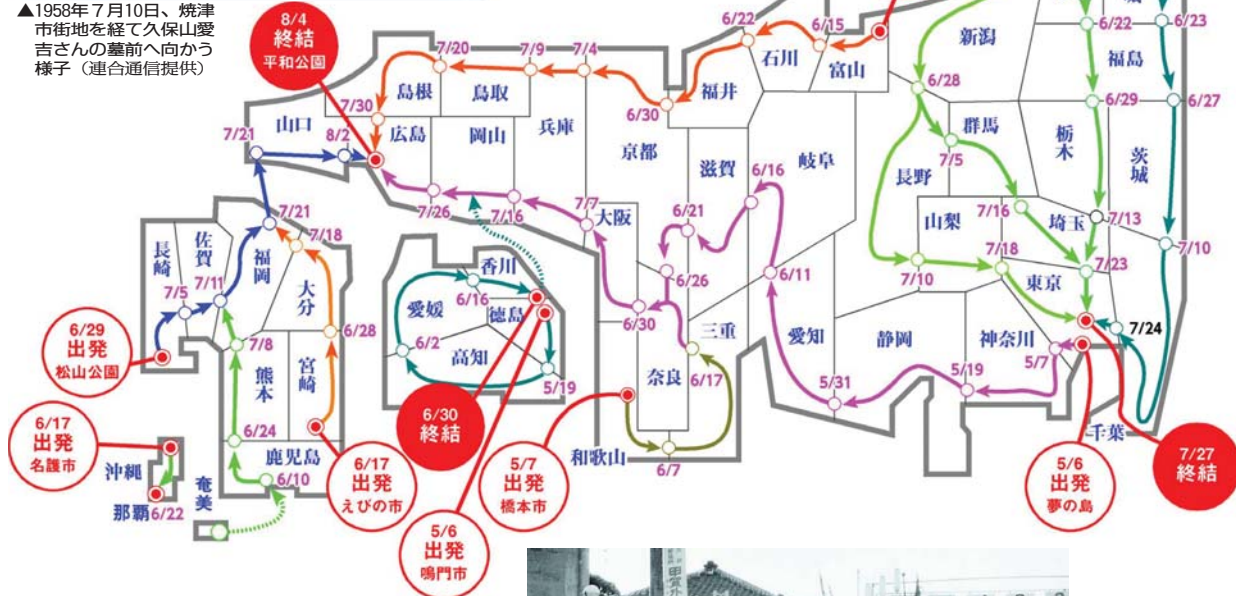
平和行進では、自治体訪問も行います。この日は、川崎区長が公園で進行者を出迎えた。被爆者もあいさつしました。平和の願いや名前が書かれたペンタは被爆地に届けられたいです。」

2024年 日程・コース

◎＝出発・終結点
○＝県境引継点



▲1958年7月10日、焼津市街地を経て久保山愛吉さんの墓前へ向かう様子(連合通信提供)



- ### 平和行進をめぐる歴史
- 1945年 ● 米国が8月6日に広島、9日に長崎に原爆を投下
 - 46年 ● 国連第1回総会、第1号決議で「原子兵器の廃棄」を求める
 - 50年 ● スウェーデンのストックホルムで開かれた平和擁護世界大会委員会総会でストックホルム・アピール署名呼びかけ
 - 54年 ● 米国が太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で水爆実験を行い、第五福竜丸を含む約1400隻以上の船が被災し、原水爆禁止署名が「燎原の火」のごとく広がる
 - 55年 ● 広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれる
 - 56年 ● 日本原水爆被害者団体協議会結成
 - 58年 ● 第1回原水爆禁止国民平和大行進(西本あつしさんが1人で広島から歩きだし、東京に到着するころには約100万人が行進に参加)
 - 70年 ● 核不拡散条約(NPT)発効
 - 85年 ● 核兵器廃絶を求める「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」国際署名スタート(2000年に日本で6000万を越す)
 - 95年 ● 第5回NPT再検討会議、条約の無期限延長を決定
 - 98年 ● インドとパキスタンが核実験
 - 2000年 ● 第6回NPT再検討会議、核兵器廃絶の「明確な約束」決める
 - 06年 ● 北朝鮮が核実験
 - 08年 ● 国民平和大行進50周年
 - 10年 ● 第8回NPT再検討会議で「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことに合意・ニューヨーク行動で国連とNPT再検討会議に署名提出
 - 11年 ● 東日本大震災・福島第1原発事故起こる
 - 14年 ● ビキニ水爆被災60年
 - 15年 ● 第9回NPT再検討会議
 - 16年 ● ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)スタート。北朝鮮が5回目の核実験
 - 17年 ● 核兵器禁止条約採択
 - 18年 ● 国民平和大行進60周年
 - 20年 ● 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名スタート
 - 21年 ● 核兵器禁止条約が発効
 - 22年 ● 禁止条約第1回締約国会議開催
 - 23年 ● 禁止条約第2回締約国会議開催
 - 24年 ● 「ビキニ被災70年から被爆80年へー非核日本をめざす全国キャンペーン」スタート
 - 25年 ● 被爆80年、禁止条約第3回締約国会議開催決定

来年へ世論のうねりを

アメリカが太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で水爆実験を行って70年の今年、被爆80年の来年に向け、核兵器のない世界へと世論を喚起しようと「非核日本キャンペーン」が始まっています。

各地で原爆パネル展や高校生が描いた原爆の絵展、被爆証言、核兵器禁止条約に参加を求める署名や自治体議会意見書の採択などが行われています。

団体や思想信条に関係なく、核兵器のない世界を求めるすべての人たちに行動を呼びかけています。



プラカード持ち行進する西本さん(左)と故久保山愛吉さんの妻すずさん(左から3人目)と母親のしゅんさん(左から4人目)＝1958年7月(連合通信提供)

1人から始まった

第1回原水爆禁止国民平和大行進は西本あつしさんが提起し、はじまりました。西本さんは、1925年、高知県生まれ。兄を戦で亡くし、平和運動に取組みました。日本山妙法寺僧として、内灘(石川)、妙義(群馬)、砂川(東京)をはじめとする米軍基地反対闘争に参加しました。

54年、アメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験で、日本のマグ

口船・第五福竜丸が被災し、水爆実験禁止、核兵器廃絶の署名運動が「燎原の火」のように広がりました。

58年春、東京で開催された日本平和委員会の会議で西本さん(当時33)は、核兵器廃絶を訴えるための「国民平和大行進」を提起。6月20日に広島を出発し、8月11日に東京に到着しました。

1人で始めた約1000キロの平和行進には、約100万人が参加しました。

静岡県焼津市では、第五福竜丸の無縁長・故久保山愛吉さんの妻すずさんと母親しゅんさんが出迎えました。

平和行進が東京に到着した時、西本さんは「平和への出発点です」と語りつづけています。

翌12日、早稲田大学大隈講堂で開催された第4回原水爆禁止世界大会で壇上に立った西本さんは、「広島で被爆した人たちの心をこの会場にお連れしました」とあいさつしました。

60年に日本共産党に入党。62年に事故に遭い、36歳で亡くなりました。